



Title	GLOCOLブックレット08 目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2012, 8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48386
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

GLOCOL ブックレットの創刊にさいして

「GLOCOL ブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の3領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年4月に開設されたGLOCOLは、大阪外国语大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで安住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」(intercultural communicability) をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携（コラボレーション）が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プログラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあつてはじめて可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることになります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOL ブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年2月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター
GLOCOL ブックレット編集委員会

トランサンショナルな 子どもたちの教育を考える

Education of Transnational Children in Japan

三田 貴・矢元貴美 [編]

目次

はじめに	三田 貴	003
「トランサンショナルな子どもたち」が持つ可能性 もう一つの背景	宮原 曜	007
I お互いの経験を聴こう・話そう ミニ座談会		015
座談会 わたしたちの将来:次世代に向けて発信していくこと	石川朝子	016
ワークショップのヒント【座談会の進め方】	石川朝子	022
II 取り組み事例と課題の共有		025
1. 長野県B市の子ども・若者の教育の現状と課題	能勢桂介	026
事前調査報告【長野】	大栗真佐美	034
2. 国際結婚の子どもたちへの支援 農村地域の取り組み	藤田美佳	039
事前調査報告【秋田】	末岡加奈子	047
3. 東海地域で取り組んだことと取り組んでいること	小島祥美	053
4. 新宿区における外国にルーツのある子どもへの支援	小林普子	060
事前調査報告【東京】	矢元貴美	069
5. 学外との協働・地域への発信 AASO映像プロジェクト	野入直美	075
事前調査報告【沖縄】	石川朝子	083
III グループワーク 課題の解決策のアイデアを考える		087
グループワーク 課題の解決策のアイデアを考える	石川朝子	088
Aグループ: 外国にルーツをもつ子どもをサポートするには?	末岡加奈子	089
Bグループ: 行政(教育委員会)と協働するには?	大栗真佐美	095
Cグループ: 子どもの自己発見をサポートするには?	津村樹理	102
Dグループ: 保護者と連携するには?	矢元貴美	108
Eグループ: トランサンショナルな子どもたちが地域へ発信するには?	石川朝子	116
本ワークショップの成果と課題	矢元貴美	122
資料 プログラム		125